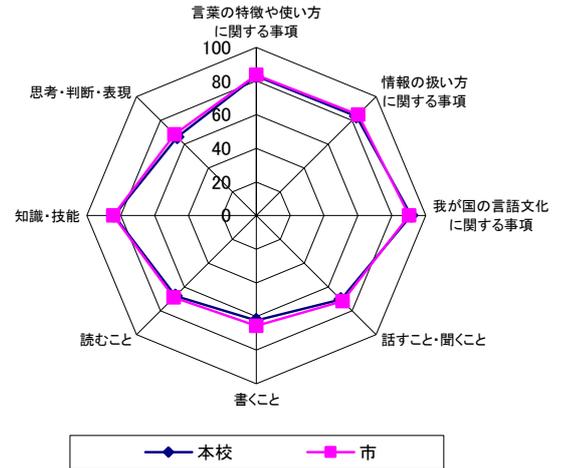


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.0	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	83.5	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	91.4	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	70.5	72.1	67.8
	書くこと	62.3	65.5	51.8
	読むこと	67.5	68.9	57.8
観点別	知識・技能	83.9	84.4	80.5
	思考・判断・表現	66.0	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



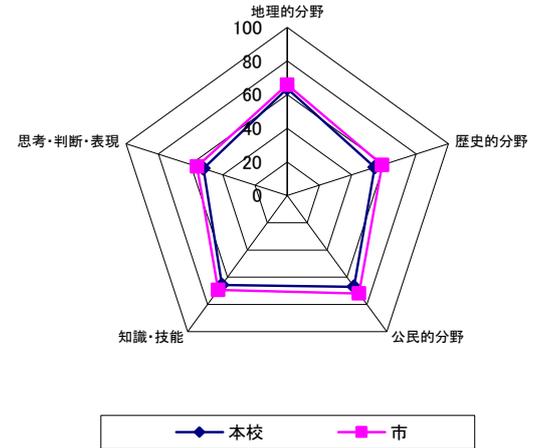
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みに関してはいずれも97%以上の正答率となっており、全国平均を上回っている。 ●市の平均と比べると、正答率がわずかに下回る設問が多かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・言葉についての学習は、経験の積み重ねが必要となる領域である。家庭学習で積極的に取り組むよう指導するとともに、「漢字の読み書き」「文法的事項」の学習を、読解教材や表現活動などでも、様々な学習機会を設け、知識の定着を図っていく。また、小中一貫の課題として、地域学校園でも同一の目標に向かって指導する。
情報の扱い方に関する事項	○「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている」という問いに対し、正答率が全国平均を上回った。 ●昨年度より、全国平均との差がなくなった。情報が意図する内容を正しく理解することに課題が残る。	・説明的文章の読解で、情報と情報との関係について理解する学習に力を入れる。さらに、情報から得られる内容を正しく理解できているか生徒に表現させる活動を取り入れ、情報活用スキルを向上させる。
我が国の言語文化に関する事項	○全国平均から7.2ポイント、市の平均から1.2ポイント正答率が上回った。昨年度に比べても、さらに全国平均よりも正答率が上回る結果となった。	・古典の学習の際に「基本事項」の復習を必ず行うようにし、「歴史的仮名遣い」や「古語」について定着を図っていくことで、古典に対する苦手意識の解消につなげる。既習事項を繰り返し学習することで、生徒の知識定着につなげる。
話すこと・聞くこと	●いずれの設問も市の平均を下回った。特に「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」という設問は、全国平均も下回った。SNSの普及により、直接的なコミュニケーションを苦手としている生徒が多いことがうかがえる。	・音声言語を用いて分かりやすく伝える力を伸ばす学習機会を増やしていく。また、教科の授業だけにとどまらず、学級活動等の話し合いでも、学んだ技術を活用させる。日頃の会話の中でも語彙を豊かに表現することを意識させる。
書くこと	○すべての設問で全国平均を大きく上回った。「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にして書く」設問では、全国平均を16.8ポイント上回り、市の平均と同等の結果であった。 ●問題の内容によって正答率が大きく変わるので、求められている表現や記述の仕方を正しく把握することに課題が残る。	・問題内容を正しく理解し、問われていることに正確に答えられるように、多様な問題に触れるようにする。授業では原稿用紙を用いて、課題作文を書くという学習を多く行っており、書くことに対する抵抗は少なくなっている。自分の考えに対する根拠も書けるようになり、力もついてきているので、今後は根拠を明確にするための表現の工夫や、まとめ方についても授業で指導していきたい。
読むこと	○すべての設問で全国平均を上回った。その中には市の平均を上回るものもあった。 ●「物語の展開の仕方を捉える」問題では、市の平均を4.7ポイントも下回り、昨年度よりも大きな差となっている。	・説明的文章より、文学的文章の問題の方が正答率が低い傾向にある。また、情景描写や、登場人物の心情を読み取ることが苦手な生徒が多いため、登場人物の言動から心情を読み取り、情景描写を丁寧に読み取る活動を授業で多く取り入れたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.6	66.0	57.8
	歴史的分野	54.3	58.9	51.4
	公民的分野	67.1	72.0	72.2
観点別	知識・技能	65.7	69.3	62.9
	思考・判断・表現	52.0	56.0	49.1



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

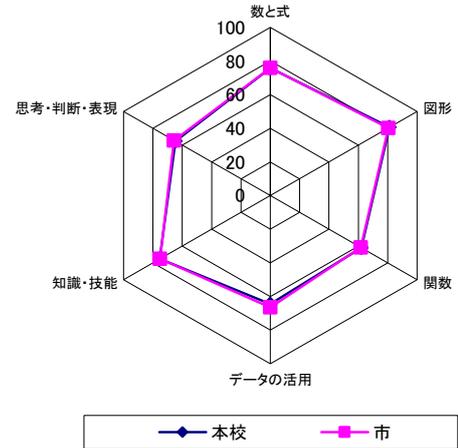
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「日本の諸地域」の農業の特色の設問については、市の正答率を僅かに上回った。 ●特に、「日本の地理的特色と地域区分」の日本の人口分布の設問については、市の正答率を大きく下回った。	・写真や文章資料以外にも、動画コンテンツの積極的活用により、世界や日本の諸地域の特色について、理解を深化させる指導を徹底していきたい。また、複数資料を比較しての読み取り問題の正答率向上のため、小集団での話し合い学習を積極的に導入することにより、資料の読解活用能力を育成していきたい。 ・特に、日本の諸地域については、諸資料の多用やAIドリルの活用により、各地域の特色を把握させる指導を徹底したい。
歴史的分野	○「古墳時代」の大和政権の勢力の広がりや「明治時代」の国会開設の勅諭と政党の結成の設問については、市の正答率を僅かに上回った。 ●特に、「江戸時代」の幕府の政治改革の設問については、市の正答率を大きく下回った。	・各時代の特色について、小集団学習での話し合い活動を今後とも積極的に取り入れることにより、より深い学びを実践していきたい。また、資料読み取りのポイントや、資料ごとに提示し、資料を活用する能力を向上させていきたい。 ・個々の歴史的事象の理解はもとより、事象間の因果関係についての理解を深化させ、各時代の特色と時代の流れを読み取る学習を充実させたい。
公民的分野	○「私たちの生活と現代社会」の物事の採決の仕方の設問については、全国の正答率を僅かに上回った。 ●特に、「人間の尊重と日本国憲法」の憲法改正手続きの設問については、市の正答率を大きく下回った。	・重要語句を十分に把握させつつ、根拠を明確にしながら自己の意見を記述する学習時間を、今後とも確保していきたい。また、教科書とICT機器の効果的利用を通して、必要な情報を読み取る活動を重視していきたい。 ・今後も、身近な地域や時事的な問題、そして地球規模的な問題への課題や取り組みについて、興味を喚起させる学習を充実させたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.8	76.0	69.0
	図形	81.2	80.5	67.7
	関数	62.2	61.6	55.0
	データの活用	64.5	66.5	56.4
観点別	知識・技能	75.3	75.1	69.4
	思考・判断・表現	64.6	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

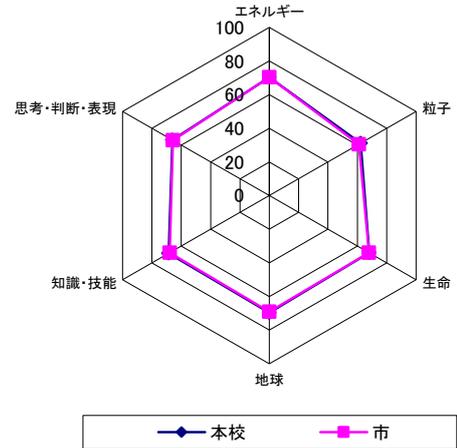
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○根号を含む式の加減の計算では、市の平均を2.4ポイント上回っている。</p> <p>●数と式の領域では市の正答率を0.2ポイント下回っている。全体的にも市の正答率を下回る問題が多かった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・立式して問題を解いたり、公式を利用した問題は正答率が高いが、基本的な計算でのミスが目立っている。そのため、教科書やワーク、プリント、AIDリルを利用した繰り返し学習を取り入れていきたい。</p>
図形	<p>○図形の問題は、市の正答率を0.7ポイント上回っている。特に、おうぎ形の面積を求める問題では、市の正答率を8.6ポイント上回る70.0ポイントであった。</p> <p>●対称移動させて重ね合わせることができる四角形について、対応する点の位置を選ぶ問題では市の正答率を4.7ポイント下回った。</p>	<p>・公式を利用して面積や長さを求める問題や、知識を問われている問題では正答率が高い。一方で、応用力を問われる問題では正答率が下がっている。そのため、練習問題に取り組みながら、定義・定理のさらなる理解に努めていきたい。</p>
関数	<p>○関数の問題は、市の正答率を0.6ポイント上回っている。特に、1組のx、yの値から、関数$y=ax^2$の式を立式する問題では、市の正答率を5.8ポイント上回った。</p> <p>●具体的な事象について、yがxに反比例することをもとに、その式を立式する問題や正方形の辺上の動点を頂点とする三角形の、面積の変化の様子を表すグラフを考える問題では 市の正答率を下回った。</p>	<p>・公式に当てはめる問題や基礎・基本を求める問題では正答率が高い。一方で、面積が変わっている様子を考えるような応用的な問題での正答率が低い。そのため、身の回りの事象を関数やグラフに表した授業を展開して、数学のよさを味わうことで、関数への学習を高めて活用する力を育てていきたい。</p>
データの活用	<p>○四分位範囲を求める問題では市の正答率を4.3ポイント上回った。</p> <p>●データの活用の領域では市の正答率を2.0ポイント下回った。特に、赤球4個、青球2個の中から1個取り出すときの確率を求める問題では、市の正答率を4.5ポイント下回った。</p>	<p>・確率を求める問題や、データを分析し説明する問題の正答率は低い。そのため、身の回りの事象を利用してデータを集め、既習事項を用いて分析する問題を練習することで、力を伸ばしていきたい。</p>

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	70.3	70.3	59.4
	粒子	62.2	61.1	56.4
	生命	68.1	67.9	62.7
	地球	69.7	69.1	65.6
観点別	知識・技能	68.6	67.9	63.8
	思考・判断・表現	66.0	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

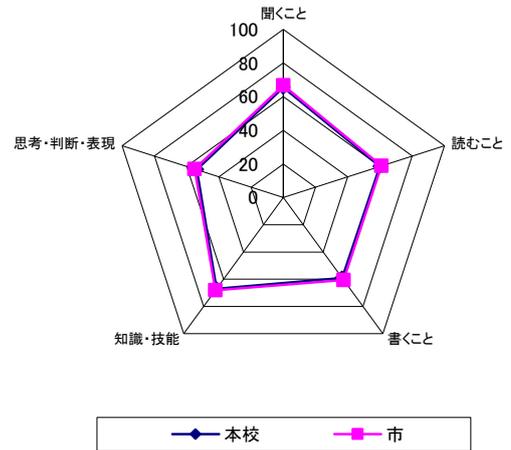
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○エネルギー分野では、市の平均と同じであった。特に、カーブミラーに凸面鏡を使用している理由の説明では+6.0ポイント上回っている。</p> <p>●光の反射の法則では4.5ポイント、静電気の理解では4.8ポイント市の平均を下回っている。</p>	<p>・図やデータを活用する内容で思考力を高めることや、重要語句などの基礎・基本を繰り返す指導をしていく。</p>
粒子	<p>○質量パーセント濃度の公式は5.5ポイント、水溶液とイオンについては各項目で市の平均を上回っている。</p> <p>●水溶液から結晶を取り出す方法が1.1ポイント、銅と酸化銅の質量の関係について1.6ポイント市の平均を下回っている。</p>	<p>・溶解度曲線のような、グラフに対する分析力を高めるため、問題演習を行い定着を図る。</p>
生命	<p>○生命分野では、市の平均を1.8ポイント上回っている。特に、外骨格の理解では9.0ポイント、遺伝子の理解では0.4ポイント上回った。</p> <p>●孫の代の種子の遺伝子の組み合わせは-8.3ポイント市の平均を下回っている。</p>	<p>・多くの語句が出てくるため、基本的な事項・性質を確認し、定着させていきたい。</p>
地球	<p>○地球分野では、市の平均を0.4ポイント上回っている。特に初期微動の理解が0.2ポイント、等圧線の理解が4.5ポイント、大気圧の理解が1.7ポイント上回っており、気象の観測では各項目で市の平均を上回っている。</p> <p>●マグニチュードと震度の意味が2.9ポイント、震度の大きさと震源からの距離の関係が3.9ポイント市の平均を下回っている。</p>	<p>・地球分野は似た語句が多いため、基本的な事項・性質をしっかり確認し、定着させていきたい。また、計算内容でも基本的な問題演習を通じて応用力を身に付けさせたい。</p>

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	65.5	66.8	61.5
	読むこと	59.9	60.9	55.5
	書くこと	59.0	60.5	50.9
観点別	知識・技能	67.0	68.1	64.1
	思考・判断・表現	53.6	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○10問中、7問で全国の平均を上回った。聞き取った対話の概要をある程度把握することができる。</p> <p>●内容理解に関する問題では、4問中3問で全国の平均を下回っており、特に道案内に関する問題が課題である。</p>	<p>・日々の授業において、教科書の内容に入る前に本文を聞き、概要を捉える練習などを行い、表現の幅を広げる工夫をしていきたい。</p>
読むこと	<p>○14問中、9問で全国の平均を上回った。長文の読み取りに関する問題では、全てにおいて全国の平均を上回った。</p> <p>●現在分詞の用法の問題では、市の平均を6.8ポイント下回っており、文法や文構造の把握に課題が残る。</p>	<p>・各文法事項の使い方や語順などを演習問題を通して丁寧に指導していく必要がある。</p>
書くこと	<p>○自分の考えや意見を相手に伝えるように書く問題では、市の平均を3.7ポイント上回った。</p> <p>●未来を表すwillの問題では、市の平均を2.2ポイント下回っており、未来形の理解が課題である。</p>	<p>・基本的な文法問題を多く行い、新出表現や文法事項の定着に努めていきたい。</p>

宇都宮市立清原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成	・「自主学习ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示を行う。 ・「本時の目標」を確実に理解させ、「振り返り」から生徒の学びに向かう態度を適切に見取る。	・1学年では「授業を集中して受けている」の項目が、2学年では「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートにまとめている」の項目が、3学年では「新しく習ったことは、何度も繰り返し練習している」の項目が、市の平均の肯定割合を上回った。
・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善	・宇都宮モデル「はっきり！、じっくり！、すっきり！」を授業の展開において明確に位置付ける。 ・学び合いなどの協働的に課題を解決する時間を十分に確保する。	・どの学年も「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」の項目が、市の平均の肯定割合を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・1学年では「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」の項目で、2・3学年では「インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任をもって情報を発信している」の項目で市の平均の肯定割合を上回っており、ICTの適切な活用がされていることが分かる。引き続きICTを使って個別最適な学びを推進していきたい。

・授業の中で宇都宮モデルの授業を更に意識化させ、本時で学んだことは何かを確認させることで、見通しをもって次時につなげていきたい。また、「自分の考えを、根拠をあげながら話す」機会を増やし、話合いを活発にさせ、協働的な学びにつなげていきたい。